

2016年度 研究助成だより Vol.2

2016年7月19日

科学研究費助成事業 特集



平成29(2017)年度 科学研究費助成事業(科研費)の公募は2016年9月上旬に発表される予定です。

公募の発表に先立ち、科研費の本学の採択状況や支援体制、また2018年度に予定されている「科研費審査システム2018」のご紹介をいたします。

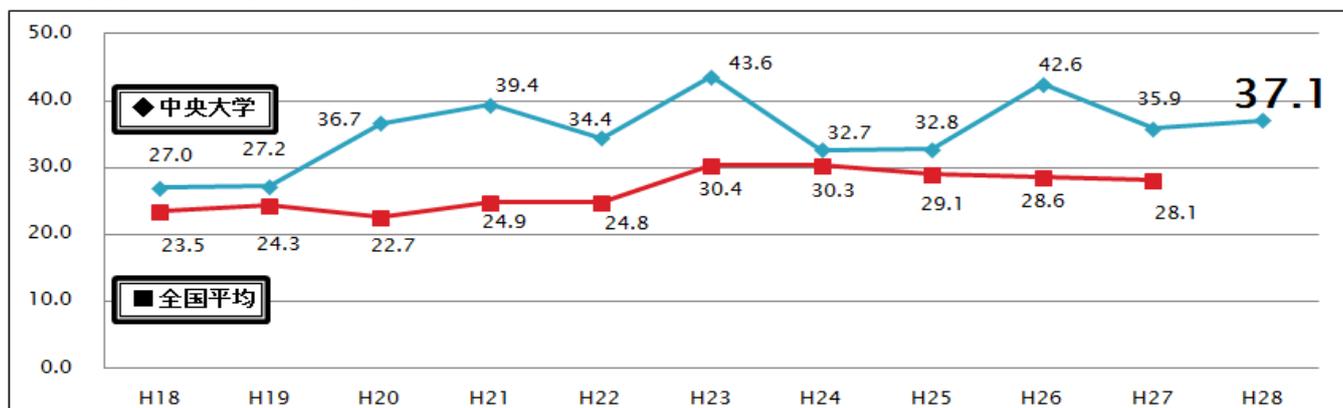
科研費とは？

- 政府全体の競争的研究資金の5割以上を占める、我が国最大規模の競争的資金です。
- 研究者の自由な発想に基づいて行われる「学術研究」を幅広く支えています。
- 一部種目の「基金化」により、研究期間全体で年度区分にとられない研究費の使用が可能です(本学ではH28年度採択者の7割以上が基金種目に該当)。
- 本学の専任教員(任期付き助教、特任を含む)、専任研究員は科研費応募資格を有します。
- 科研費の採択件数=大学における研究活動の指標 となり、幅広いステークホルダーからの関心が寄せられています。

本学の採択状況および支援体制

平成28年度科研費の本学の採択率は37.1%となり、過去10年間では毎年、全国平均よりも高い採択率を誇っております。 *平成28年度の全国平均数値は9月頃公表予定

■採択率の経年変化(全種目平均・H28までの過去10年)



また、本学では科研費採択に向けて、以下の支援体制を準備しております。

1) 学内説明会の実施（7・9月）

各キャンパスにて、科研費申請に向けた学内説明会を実施しております。
本年度7月の学内説明会の日程は以下となっております。

『平成29年度科学研究費助成事業 公募に関する説明会（7月版）』

(1) 2016年7月25日（月）11:00～12:00 多摩キャンパス2号館1階 2105号室

(2) 2016年7月27日（水）13:30～14:30 多摩キャンパス1号館4階 1408号室

※同一内容で実施いたします。※事前予約不要です。

・7月の説明会では、秋公募の科研費に向けて、この夏の期間に準備をしておく良いことを具体的に説明いたします。また、科研費を獲得することによる研究・教育上の様々なメリットをご紹介しますとともに、「科研費審査システム改革2018」についてもご説明いたします。

9月の説明会では、科研費採択に向けて、昨年度からの変更点や種目選択方法、審査項目を意識した計画調書作成のポイント等をご紹介します。日程については、おってホームページ等でご案内させていただきます。

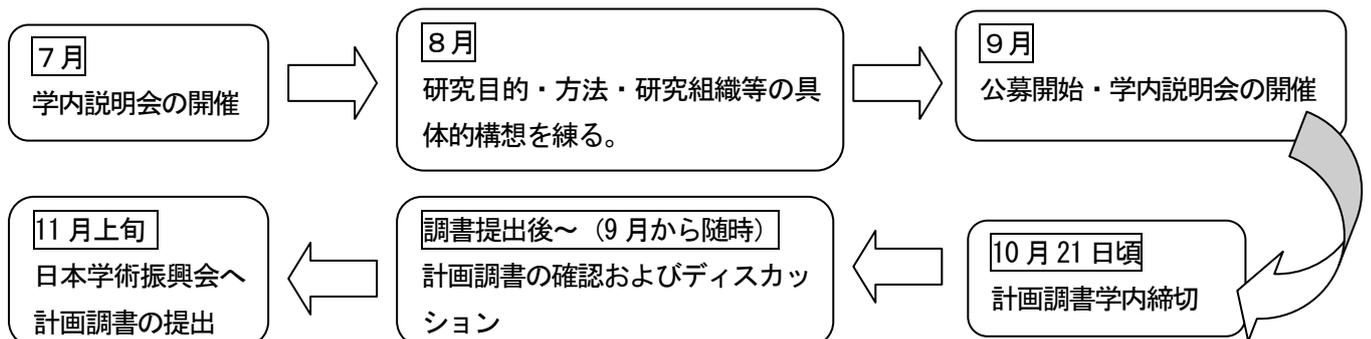
2) 研究計画調書の形式・ロジック等チェック

本学では、研究計画調書の学内締切から日本学術振興会への提出締切までの間に、計画調書の形式やロジック等をチェックさせていただいております。近年、科研費審査では応募細目以外の専門分野の審査員による審査が増えております。このことから、審査項目をおさえた計画調書を作成するために、事務局の第三者の目で計画調書を確認し、先生方とのディスカッションのお時間をいただいております。

3) 個別相談の実施

本学では、年間を通して科研費申請にかかる個別相談を受け付けております（どの種目に応募しよう？どんな準備が必要？など）。ご希望がございましたら、各キャンパスの科研費申請担当までご連絡をお願いいたします。

平成29年度 科研費公募の学内スケジュールは以下を予定しております。（正式な決定につきましては、9月以降にご案内させていただきます）



科研費 研究成果公開促進費について

秋公募の科研費種目の一つである『研究成果公開促進費』は、重要な学術研究の成果の発信やデータベースの作成・公開を助成し、優れた研究成果の公的流通の促進を図るものです。このうち、研究者個人が応募資格を有する『学術図書』と『データベース』を、それぞれご紹介いたします。

学術図書 平成28年度採択率(全国平均): 43.7%・概ね100~150万円の補助

対象: 個人又は研究者グループ等が、学術研究の成果を公開するために刊行しようとする学術図書

○刊行のみ行うもの

- 研究成果の論文等を、出版するもの(平成29年4月1日以降に入稿し、平成30年2月末日までに刊行を行う)
- 応募時(平成28年11月)に完成した原稿の提出が必要

○翻訳・校閲

- 日本語で書かれた図書・論文を外国語に翻訳・校閲のうえ、出版するもの(平成29年~平成30年度の間で翻訳・校閲・刊行を行う)
- 応募時(平成28年11月)に完成した原稿の提出が必要

データベース 平成28年度採択率(全国平均): 41.6%・概ね350万円前後の補助

対象: 個人又は研究者グループ等が作成するデータベースで、公開利用を目的とするもの

研究成果の公表を希望されている方は、ぜひご検討のうえ科研費担当部署までご連絡ください。

「科研費審査システム改革2018」について

日本学術振興会において、学術研究やピアレビューの本義に立ち返って、2年余りにわたり議論を進め、本年3月、研究種目と審査区分・方式を一体的に見直す改革案が取りまとめられました。この報告は、平成30年度助成(平成29年9月に公募予定)に向けた制度設計の基本的な枠組みとなるものであり、そのポイントを以下に紹介いたします。

(なお、この改革は、「科研費制度の不断の改善の一環であり、一定期間後の再評価とともに学術動向や研究環境の変化に応じて、適切に取組を進めていくこと」とされています。)

研究種目の見直し

- ・平成29年度(今秋9月公募)申請より挑戦的萌芽研究の発展的な見直しを実施予定
新・『挑戦的研究(開拓)』: 一人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、斬新な発想に基づき、これまでにない新たな方式の創出など、学術の体系・方向を大きな変革・転換を志向し、大きく発展する潜在性を有する研究計画。(研究期間3~6年、助成額500万円~2,000万円)
新・『挑戦的研究(萌芽)』: (開拓)に加えて、発展性の高いもの、芽生え期のもの(研究期間2~3年、助成額500万円以下)
- ・平成30年度助成より「特別推進研究」、「若手研究(A)」の見直し・新制度の実施

審査区分の見直し *図1をご参照ください

平成30年度助成(平成29年9月に公募予定)からは、「分科細目表」に代わって新たな「審査区分表」に基づき審査を実施

審査方式の見直し *図1をご参照ください

新たな「審査区分表」の作成に伴い、変化する学術動向に対応し、競争的環境の下で、優れた研究課題を見出すことができるよう、研究種目に応じた審査方式の見直しを行う。

基盤研究(B・C)、挑戦的研究、若手研究(B) → 「2段階書面審査」方式 合議審査は行われない

基盤研究(A)、若手研究(A) → 「総合審査」方式 調書様式変更になる模様

■図1(新しい審査区分と審査方式について)

●【「科研費審査システム改革2018」のポイント】

**科研費の公募・審査の在り方を抜本的に見直し、
多様かつ独創的な学術研究を振興する**

現行の審査システム	新しい審査区分と審査方式 平成30年度助成(平成29年9月に公募予定)~													
<p>最大400余の細目等で 公募・審査</p> <p>細目数は321、応募件数が最多の基盤研究(C)はキーワードによりさらに細分化した432の審査区分で審査。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>基盤研究(S)</td></tr> <tr><td>基盤研究(A)</td></tr> <tr><td>(B)</td></tr> <tr><td>(C)</td></tr> <tr><td>挑戦的萌芽研究</td></tr> <tr><td>若手研究(A)</td></tr> <tr><td>(B)</td></tr> </table> <p>○すべての研究種目で、細目ごとに同様の審査を実施。</p> <p>○書面審査と合議審査を異なる審査委員が実施する2段階審査方式。</p>	基盤研究(S)	基盤研究(A)	(B)	(C)	挑戦的萌芽研究	若手研究(A)	(B)	<p style="text-align: center;">「分科細目表」を廃止</p> <div style="text-align: center; font-weight: bold; color: purple;"> 新たな審査システムへ移行 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #FFD700; padding: 5px;"> 大区分(11)で公募 中区分を複数集めた審査区分 基盤研究(S) </td> <td rowspan="3" style="padding: 5px; vertical-align: top;"> 「総合審査」方式 -より多角的に- 個別の小区分にとらわれることなく審査委員全員が書面審査を行ったうえで、同一の審査委員が幅広い視点から合議により審査。(基盤研究(S)については、「審査意見書」を活用。) ・特定の分野だけでなく関連する分野からみて、その提案内容を多角的に見極めることにより、優れた応募研究課題を見出すことができる。 ・改善点(審査コメント)をフィードバックし、研究計画の見直しをサポート。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFD700; padding: 5px;"> 中区分(65)で公募 小区分を複数集めた審査区分 基盤研究(A) 若手研究(A)*1 <small>※1 平成30年度公募以降見直し予定</small> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFD700; padding: 5px;"> 小区分(304)で公募 これまで醸成されてきた多様な学術に対応する審査区分 基盤研究(B) (C) 挑戦的萌芽研究*2 若手研究(B) <small>※2 平成29年度公募から後継種目を導入</small> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 10px;"> <p>●特別推進研究(平成30年度公募以降見直し予定)、新学術領域研究の在り方については別途検討。</p> <p>【科学研究費助成事業(科研費)審査システム改革2018(報告)】の全文については、以下のURLをご参照ください。 URL: http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1362786.htm</p> </td> </tr> </table>	大区分(11)で公募 中区分を複数集めた審査区分 基盤研究(S)	「総合審査」方式 -より多角的に- 個別の小区分にとらわれることなく審査委員全員が書面審査を行ったうえで、同一の審査委員が幅広い視点から合議により審査。(基盤研究(S)については、「審査意見書」を活用。) ・特定の分野だけでなく関連する分野からみて、その提案内容を多角的に見極めることにより、優れた応募研究課題を見出すことができる。 ・改善点(審査コメント)をフィードバックし、研究計画の見直しをサポート。	中区分(65)で公募 小区分を複数集めた審査区分 基盤研究(A) 若手研究(A)*1 <small>※1 平成30年度公募以降見直し予定</small>	小区分(304)で公募 これまで醸成されてきた多様な学術に対応する審査区分 基盤研究(B) (C) 挑戦的萌芽研究*2 若手研究(B) <small>※2 平成29年度公募から後継種目を導入</small>	<p>●特別推進研究(平成30年度公募以降見直し予定)、新学術領域研究の在り方については別途検討。</p> <p>【科学研究費助成事業(科研費)審査システム改革2018(報告)】の全文については、以下のURLをご参照ください。 URL: http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1362786.htm</p>	
基盤研究(S)														
基盤研究(A)														
(B)														
(C)														
挑戦的萌芽研究														
若手研究(A)														
(B)														
大区分(11)で公募 中区分を複数集めた審査区分 基盤研究(S)	「総合審査」方式 -より多角的に- 個別の小区分にとらわれることなく審査委員全員が書面審査を行ったうえで、同一の審査委員が幅広い視点から合議により審査。(基盤研究(S)については、「審査意見書」を活用。) ・特定の分野だけでなく関連する分野からみて、その提案内容を多角的に見極めることにより、優れた応募研究課題を見出すことができる。 ・改善点(審査コメント)をフィードバックし、研究計画の見直しをサポート。													
中区分(65)で公募 小区分を複数集めた審査区分 基盤研究(A) 若手研究(A)*1 <small>※1 平成30年度公募以降見直し予定</small>														
小区分(304)で公募 これまで醸成されてきた多様な学術に対応する審査区分 基盤研究(B) (C) 挑戦的萌芽研究*2 若手研究(B) <small>※2 平成29年度公募から後継種目を導入</small>														
<p>●特別推進研究(平成30年度公募以降見直し予定)、新学術領域研究の在り方については別途検討。</p> <p>【科学研究費助成事業(科研費)審査システム改革2018(報告)】の全文については、以下のURLをご参照ください。 URL: http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1362786.htm</p>														

『科研費審査システム改革2018』の詳細につきましては、文部科学省ホームページをあわせてご参照ください。(前頁の学内説明会でも、詳細について説明させていただきます)

【文部科学省 科研費のページ】 http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm

本学での科研費申請支援や採択状況等の最新情報につきましては、本学ホームページおよび授業支援システム「manaba」にて更新予定でございます。あわせてご利用ください。



科研費に関する問い合わせ先

学事部研究助成課(多摩・市ヶ谷・市ヶ谷田町キャンパス) 本誌発行元

TEL: 042-674-2198, 2139 E-Mail: t-kaken@tamajs.chuo-u.ac.jp

研究支援室(後楽園キャンパス)

TEL 03-3817-1603 E-Mail: 03kaken@tamajs.chuo-u.ac.jp